

# 日本連盟全国広報担当者会議報告

2018.3.31

加藤 勉

日時:H.30. 03. 24 12:00～15:30

場所:大阪アカデミア

出席者:加藤 尚(総務委員)・加藤 勉

内容:

- |   |     |
|---|-----|
| I 広報委員会からの報告と依頼他(山下委員長)                 | 資料1 |
| 1. H.29年度の広報活動について                      |     |
| 2. H.29年度全日本選手権大会における計画及び実施状況           |     |
| 3. ホームページの運営                            |     |
| 4. 広報誌発行                                |     |
| 5. ソフトテニスの歌の活用                          |     |
| 6. 映画「案山子とラケット」の周知                      |     |
| 7. 「そふてい」の活用                            |     |
| II NHKの放送とアピールについて(NHKグローバルメディアサービス萩原氏) | 資料2 |
| III 新聞記者から見たソフトテニス広報への提言(京都新聞滋賀本社 岡本氏)  | 資料4 |
| IV 新たな広報活動及びその推進について(山下委員長)             | 資料5 |
| V 地区大会・学連・支部ニュース投稿に関するお願い(野際専務理事)       | 資料7 |
| VI 日連HP機能追加説明;HPの記録の配信について(大野委員)        | 資料8 |

## 内容説明

### I・IV

3. ホームページの運営について; リニューアルする。即時性＝閉会式と同時位の配信を計画(H30年度)

メディア掲載記事の活用＝大会結果のみは省いて、各地での報道番組録画や新聞紙面の日連への提供  
※HP以外ではSNSの活用(但し、個人情報やいじめ等に注意を払うルール作りを行う)

4. 広報誌発行;発行部数2,000に対し、購読者1,350+贈呈270でしかない。会員数46万人・愛好者700万人に比してあまりに少ない⇒購買読数増に向けた取り組み(掲載内容・販売方法等の検討)を始める

5. ソフトテニスの歌の活用;テーマソング『Winning Shot』や応援歌『青空背負って』をJSTA主催大会前に流す

7. そふていの貸し出し方法・経費等に関するルールを作り、活用を図ると共により活動的なキャラクターを検討する

◎広報活動の更なる推進に向けて

◆体制作りとソフトテニス関連企業以外のスポンサー開発

◆登録(個人・団体)数減少の歯止めと増加方策検討と提案

### II

NHK放送:E-Teleにて視聴率1%を獲得＝120万人が視聴(通常スポーツで0.1%)⇒3年前から90分枠へ拡大

※S53年のスポーツアワー(成田高校女子)初回視聴率7%を記録

◆NHK宇都宮は、ローカル枠を持っていることから、情報発信をすることが大切(萩原氏経由でも可)

### Ⅲ

①新聞地域面に記載されるソフトテニス記事(記録のみを含む)は、100本/年

②紙面は各競技の奪い合い⇒野球・サッカー・陸上・バスケットボール・バレーボール・卓球・・・

◆ソフトテニスの優先順位向上は難しい⇒

③効果的な広報の為には

◆記者と『顔』の見える関係に⇒栃木地区各新聞社訪問が必要＝運動部(スポーツ担当記者)にアクセスを!

◆記事送信後の「ひと言」を忘れずに⇒Fax後電話を! ※情報は鮮度が命(写真データ・エピソード等も添えて、即時)

◆ソフトテニスの『変革』をキーワードに

④大会運営について

◆記者席を準備(机・椅子・電源必要)※広報担当者が側にいて、記者の質問に即答出来、記録も即提出できると良い

◆『内向き』ではなく『外向き』の大会に

◆ツイッターの活用を⇒県ソフトテニス連盟アカウントによる情報発信

◆『魅せる』スポーツへ⇒2021年ワールドマスターズゲームに参戦

### V

◆大会結果はWordで書いて、E-Mailで送付

◆支部ニュースは機関紙の「支部ニュース」の最後に掲載されている『標記の仕方』を参考の事

◆写真データは不要

## VI

◆情報提供機能:2018年4月～試行し、夏頃に本稼働

その他(質疑・応答)

◆SNSは自己紹介のみ(他人はNG )

◆大会動画5月のアジア大会予選・全日本シングルス大会を試験的(人・金は日連負担)

※肖像権(観客等)は、選手は撮影前に確認することが可能である。

観客は個人が特定できない撮影を検討してもよいが、実質的に不可能。明確な回答は現時点で無い。

◆日本体育協会⇒日本スポーツ協会へ(2018/4～)

- 所感:
- ◆当連盟にとっても、広報が重要であることを認識させられた
- ◆大会は『外向き』であるべき事
- ◆情報は生き物であり、新鮮さが命
- ◆情報には『金・人・物・時間・材料』が必要
- ◆試合の撮影について。  
肖像権について、膨大な編集負荷をかけるのか？(設備、人材への投資)  
選手にはもちろん配慮し、観客には試合を撮影していると言う認識を持ってもらった上で、  
撮影が分かるようにして映りこみ等への協力を促す。こちら側が配慮するだけではダメ。  
スポーツの撮影は一般的にオープンな傾向ではないか？(TV中継等は観客が認識した上で映っている)
- ◆大会運営について、選手はもちろん応援の方や観客にも楽しんで貰える姿勢も必要である。  
具体的には食事や販売の充実(ケータリングや移動販売車の活用、グッズや用品の販売等)  
互いに利益になるものがあれば、地域や商会の協力も得やすいのではないか。  
興行としての運営も必要。テーマソングや応援歌は本部席や販売テントで流せばいいのでは？
- ◆ソフトテニスの観客動員数は中々目を見張るものがある。
- ※広報委員会が必要！